

大学生の力を活用した集落復興支援事業
平成 28 年度報告書

下野尻自治区

上越教育大学大学院美術コース
伊藤研究室

目次

I はじめに

1. 伊藤研究室概要
2. 集落概要
 - (1)人口及び世帯数、位置
 - (2)現状

II 活動内容

1. 活動スケジュールとその内容
 - (1)スケジュール
 - (2)各活動内容
2. 観光資源の紹介

III 活性化策の提案

1. 本年度活性化策の提案

IV おわりに

I はじめに

1. 研究室概要

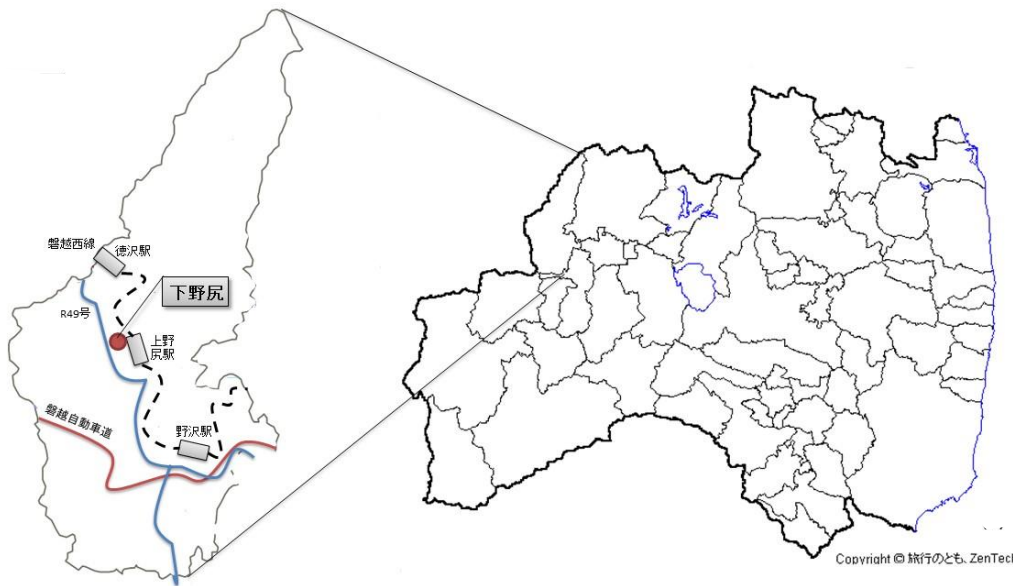
上越教育大学伊藤研究室は、美術を通じた教育活動を、研究の軸としています。これまでに、新潟県の粟島浦村や、福島県喜多方市で、絵画制作を基本とした地域資源の再考を促すワークショップを、地元の小中学生と共に、展開してきました。私たちの活動では、美術の創作活動を通じて、地域における資源の価値についての研究を深めることを目的としています。

この度、「大学生の力を活用した集落復興支援事業」へ参加する機会をいただき、対象集落である下野尻自治区において、現地調査を重ねてきました。下野尻自治区のある福島県西会津町は、新潟県と隣接しています。歴史を振り返れば、新潟県と会津は、越後街道によって、結ばれていました。福島県の玄関口として、多くの往来があったこの土地の風土・歴史・文化を掘り起こし、地域資源について、地元の小中学生と共に、掘り下げていきたいと考えています。

2. 集落概要

(1)人口及び世帯数、位置

下野尻自治区は福島県耶麻郡西会津町群岡にある人口 213 人 79 世帯から成る集落で、JR 上野尻駅から徒歩 15 分、磐越自動車道 IC から車で 15 分程に位置しています。



(2)歴史

かつて江戸時代には越後街道の宿場町として栄えていました。イギリス人女性探検家であるイザベラ・バードが訪れた車峠があり、その際の様子を『日本奥地紀行』に記されています。

(3)現状

集落には若者が少なく、高齢化率が 52%と高齢化及び過疎化が進み空き家が増えている現状です。平成 24 年度に集落内にあった小学校が統合のため廃校となったことも追い風になっています。

II 活動内容

1. 活動スケジュールとその内容

(1) スケジュール

私たちは8月から約半年に渡り、下野尻で以下のような活動を行ってきました。

(a)	8月20日	下野尻自治会顔合わせ
(b)	9月10日	下野尻をよく知る方への聞き取り調査
(c)	10月9日	祭事への参加
(d)	11月5日	旧越後街道（会津街道）の探索
(e)	12月22日	門松作り体験
(f)	～2月4日	マップ制作
(g)	～2月4日	観光資源調査
(h)	2月4日	本年度活動報告

(2) 各活動内容

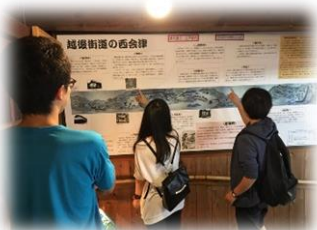
(a) 下野尻自治会顔合わせ

集落での活動を行うにあたり、まず集落の自治会の方々との顔合わせを行いました。互いの自己紹介のほか、集落の現状や歴史、観光資源となりうるものや行事などについて役員の方々から様々なお話をお聞きし、活動の方向性を描くことができました。



(b) 下野尻をよく知る方への聞き取り調査

より深く下野尻の歴史を知るために、役場で働いていた方々への取材も行いました。取材を通し下野尻だけではなく、西会津町全体の歴史を知ることも必要だと感じたため、西会津町内にあるふるさと自慢館にも訪れました。その日は西会津町内のお祭りで縁日が出ていたため、西会津町のお祭り文化にも触れることができました。



(c) 祭事への参加

毎年10月に下野尻で行われる、下根拆神社例大祭本祭りにも参加させて頂きました。たる神輿と呼ばれる神輿を下野尻の人々と共に担ぎ、大きく掛け声をあげながら集落内を練り歩きました。雨の中の祭事となりましたが集落の人々と交流を深めながら、伝統ある文化に触れることができた貴重な体験でした。



(d) 旧越後街道（会津街道）の探索

そして、世話役の方々の案内の元、旧越後街道の探索も行いました。道中では自然のなめこが大量になっているのを見つけたり、熊の糞を見つけたりと自然をたくさん感じる事ができました。頂上の車峠ではかつてこの場所にあった茶屋の跡地を探索し、名残である井戸を見学することができました。茶屋跡には草木が生い茂っており、ここを活用するには大規模な環境整備が必要だと感じました。



(e) 門松作り体験

年末には、世話役の方が集落内に飾る門松を作るということで、門松作りを見学、体験させて頂きました。全員初めての体験でしたが、指導を受けながらそれぞれ思い思いの門松を作り上げることができました。そのうちの一つを持ち帰り大学に飾らせて頂きました。



(f) マップ制作

全ての活動を元に本年度活動の一つの形として下野尻探索マップを制作しました。過疎化を防ぐためには外から人を呼び込むことも必要ですが、まずは西会津町や地元の人々に、下野尻にはこんなにも素敵な観光資源や魅力があるということを再確認して頂くことも大切だと考えたためです。

まずマップの下描きを行った後、観光協会の方に監修して頂き情報を整理しました。それを手に実際に下野尻地区を歩き、要所の位置の確認を行いました。

清書では下野尻を訪れたイギリス人女性探検家のイザベラ・バードをキャラクター化し、リーフレットの中に登場させることで、子供の手に取ってもらえるようなデザインとしました。表紙には越後街道を通り抜け、下野尻地区の素晴らしい景色を臨んでいるイザベラ・バードの姿を描きました。また、イザベラ・バードの紹介及び『日本奥地紀行』についての説明文、観光資源に関するクイズなどを入れ込み、大人から子供まで楽しむことができるよう配慮しました。裏表紙には観光資源を紹介しているようなイザベラ・バードの姿を描き、マップ全体として親しみを持ちやすくするために、水彩絵具を使い手書き風に仕上げました。歴史や季節、観光資源なども考慮し、厳選した要所に番号をふり、ポイントごとで回ることが出来るように工夫しました。マップの淵には朱色の枠の上に下野尻地区に生息する動物や植物などを模様として描き、見た人が色々なものを発見し楽しむことが出来るようにしました。



<表紙>

- ・キャラクター化したイザベラ・バード
- ・イザベラ・バードの基本情報
- ・観光名所の説明文、クイズ



<裏表紙>

- ・キャラクター化したイザベラ・バード
- ・手描き風のマップ
- ・番号をふった観光名所
- ・模様が描いてある枠



(h) 本年度活動報告会

本年度最後の活動として、本年度の活動内容及び活性化策の提案を集落の方々にお伝えする報告会を開かせて頂きました。お忙しい中たくさんの方々にお集まり頂きました。この日初めてお会いする方も多く、今までお聞きすることができていなかった意見や要望、そして下野尻に対する熱い想いをお聞きすることができました。報告会を通して、来年度以降の活動の方向性がより具体的に見えてくることとなりました。



2. 観光資源の紹介

これらの活動と並行して、観光資源の調査も行いました。調査を通して、イザベラ・バードが訪れたという歴史がある旧越後街道を中心とした活性化策に加え、魅力的な観光資源を用いた活性化策が幾つか考案されることとなりました。地域の宝である観光資源を幾つかご紹介させていただきます。

「旧越後街道（会津街道）」

旧越後街道はかつて会津五街道と呼ばれていた街道の一つで、新発田藩と村上藩が参勤交代に利用していました。新発田側から見た際に会津街道と呼び、会津側から見た際には越後街道と呼ばれることが多いそうです。会津側からは米、越後側からは海産物が運ばれるなど、物資の流通に使われており、当時の人々の暮らしを支えていました。現在では草木が生い茂り、土砂崩れなどによって通れない箇所もあり、街道としての役割は果たしていません。



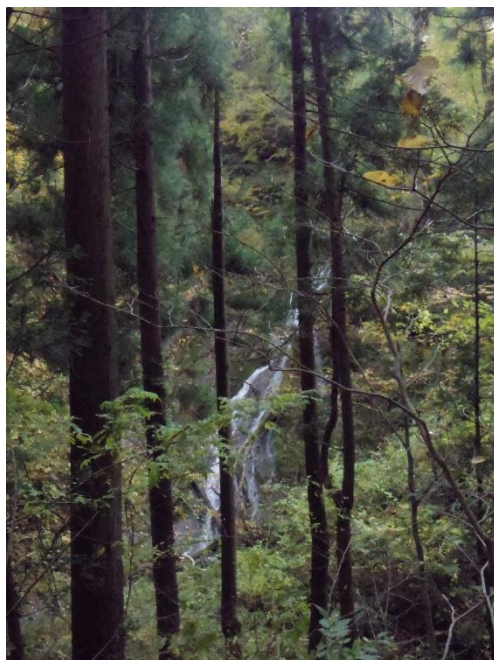
「石割り（石抱き）桜」

集落から少し離れたところに石を割るように咲いている大きな桜の木があります。石を割るように根を張るその姿から「石割り桜」と呼ばれ、集落の方々から長い間親しまれてきました。春になると美しい花びらで彩られます。近年では、石を割るように、ではなく抱いているようにも見えるとのことで、「石抱き桜」と呼ぶ方も居られるようです。



「幻の滝」

石割り桜から川沿いに進むと木々の間から見えてくる滝があります。こちらの滝は、ある条件が揃った時にのみ現れることから幻の滝と呼ばれています。次に紹介する貯水池の水量が雨によっていっぱいになることで、端から水が溢れ出します。それによって現れるのが、こちらの幻の滝です。木々に囲まれた岩肌を白い水が流れ落ちる様は美しく涼しげです。



「新堤」

幻の滝から更に奥に進むと視界が開けたところに広がる貯水池が現れます。こちらは新堤と呼ばれる貯水池で、先ほどの幻の滝の現れる条件にもなっています。視界が開けており、太陽が差すと水面に光が反射して輝き、周囲の木々の彩りと相まって美しい景観になります。



「慈眼寺」

集落内にあるこちらのお寺は、臨済宗妙心寺派の歴史あるものです。敷地内には樹の上に卵を産む珍しいアオモリガエルが生息している池や、樹齢約300年、太さ180cmの大きな銀杏の木があります。



「根柢神社」

集落内にあるこちらの根柢神社では、私たちも参加させて頂いた根柢神社例大祭などの各種祭事が行われます。敷地内には疣（いぼ）に効くとされている「いぼころり」という砂がある他、あの幻の生き物であるツチノコを見たという噂があるそうです。



「癒しの丘」

集落から少し離れたところにあるこちらの丘は「癒しの丘」と名付けられており、ここからは見晴らしのいい眺望の他、近くの線路を走るSLを見ることができます。そのため絶好のSL撮影スポットとなっている他、テーブルセットがあるためそでご飯を食べることもできます。



Ⅲ 活性化策の提案

1. 本年度活性化策の提案

聞き取り調査や観光資源の調査等全ての活動を通し、観光資源を用いた活性化策の案が幾つか考案されることとなりました。本年度一年目の提案としてご紹介させていただきます。

「石割り桜周辺の景観整備」

先にも述べた通り美しい石割り桜ですが、現状はただそこに生えているだけであり、小川を挟んで高い位置にある舗装されていない山道から眺めることしかできません。そこで、小川沿いに足場を設置し、気軽に散歩しながら石割り桜や幻の滝をより近くから眺められるようにし、より多くの人に足を運んで貰えるようにしたいと考えました。小川の環境整備次第では、蛍を見ることもできるのではと考えております。



「新堤ボート乗り場」

新堤が水でいっぱいの時、季節限定ではありますが、ボート乗り場を設けることで下野尻の新たなレジャーになるのではと考えました。日の光や木々の移ろいの美しい景色を楽しむことができます。石抱き桜や幻の滝を眺めながらの犬の散歩や家族での散歩の後、新堤でボートに乗るといった流れが出来たらと考えています。



「ナイトハイク 夜の越後街道を歩く」

旧越後街道を使った活性化案の一つです。歴史ある観光資源の旧越後街道を生かし、当時の文化に想いを馳せながら灯籠によって明かりを灯された街道を歩くというイベントを考えております。灯籠を集落の方々と一緒に作るワークショップを行うことも挙がっています。



その他にも提案として、

○集落内に多数ある空き家をリノベーションし、石割り桜や旧越後街道、SLを楽しむ際の宿泊場所に

○車峠の茶屋の復活

○空き家や車峠の茶屋でイザベラ・バードとその下人の伊藤にあやかった街コンの開催

○この地域で栽培されている軟白ネギを使ったスイーツの考案

等が考えられています。また、先日の地域づくりオープンカフェでの発表後の質疑応答で頂いた貴重なご意見から、

○他の地域にもある石抱き桜とコラボレーションし、石抱き桜開花カレンダーなどを作成する

といった、下野尻発で他の地域も活性化させるような案も考えられました。

IV おわりに

約半年の活動を経て、先日行った下野尻での活動報告会では集落の方々それぞれが抱えている下野尻への愛や、情熱、希望を強く感じるとともに、多くの課題が見えることとなりました。一年目ということもあり、まずは下野尻という地を知ろうという思いが先行し、観光資源の調査や文献調査等が活動の大半を占めていました。その結果、集落の方々と触れ合い想いを交し合う機会が少なかつたように感じます。来年度以降の活動として、活動報告会で頂いたご意見やアイデアをブラッシュアップし形にしていくことは勿論、作成したマップを用いて子どもたちと下野尻の魅力再発見ツアーを行うことや、石割り桜をスケッチすることを考えてもいます。しかし、それらと並行して大切にしていきたいと考えているものは、集落の方々とのより深い交流です。

本年度の活動を通して強く感じたことは、土地というものは観光資源や歴史だけでなく、そこで暮らしてきた人々の生活や想いも含めて土地だということです。来年度は下野尻の人々と更に深い関わりをもち、心に寄り添った活動をしていきたいと考えております。